

作成日 2001/01/09

改訂日 2016/04/22

安全データシート

1. 化学物質など及び会社情報

製品の名称： ムシュゲンJ
 製品コード： 00139-01
 会社名： 無臭元工業株式会社
 住所： 東京都足立区江北2-8-6
 電話番号： 03-3890-9156
 F A X 番号： 03-3890-6779
 e-mail support@mushugen.co.jp
 推奨用途および使用上の制限
 使用用途： 脱臭剤
 使用上の制限： 用途以外には使用しない

緊急連絡電話番号 (平日昼間)： 03-3890-9156
 (休日、夜間)： 080-3599-4957

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

可燃性・引火性ガス：	分類対象外
可燃性・引火性エアゾール：	分類対象外
高压ガス：	分類対象外
引火性液体：	分類できない
可燃性固体：	分類対象外
自然発火性液体：	分類できない
自然発火性固体：	分類対象外
自己反応性化学品：	分類できない
自己発熱性化学品：	分類できない
水反応可燃性化学品：	分類できない
有機過酸化物：	分類対象外
支燃性・酸化性ガス類：	分類対象外
酸化性液体：	分類できない
酸化性固体：	分類対象外
火薬類：	分類対象外
金属腐食性物質：	分類できない

健康に対する有害性

急性毒性（経口）：	区分外
急性毒性（経皮）：	区分外
急性毒性（吸入：ガス）：	分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気）：	分類できない
急性毒性（吸入：粉じん）：	分類対象外
急性毒性（吸入：ミスト）：	分類できない
皮膚腐食性・刺激性：	分類できない
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性：	分類できない
呼吸器感作性：	分類できない
皮膚感作性：	分類できない
生殖細胞変異原性：	分類できない
発ガン性：	分類できない
生殖毒性：	分類できない
特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）：	分類できない
特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）：	分類できない
吸引性呼吸器有害性：	分類できない

環境に対する有害性

水生環境急性有害性： 分類できない
 水生環境慢性有害性： 分類できない

注意喚起語：

危険有害性情報：

注意書き

予防策： 保護手袋、保護衣および保護眼鏡または保護面を着用すること。
 取扱い後はよく洗うこと。
 使用前に取扱説明書を入手すること。すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

対 応： 飲み込んだ場合：気分が悪いときは、医師に連絡すること。口をすすぐこと。
 目に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診断手当を受けること。取り扱った後、手を洗うこと。

保 管： 施錠して保管すること。

廃 棄： 内容物／容器は国際／国／各自治体の規則に従って廃棄すること。

国/地域情報：

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別： 混合物

成 分	含有量 (wt%)
亜鉛の水溶性化合物	2.3
安定化剤	
香料	
界面活性剤	
色素	

4. 応急措置

- 吸入した場合： 被災者を直ちに空気の新鮮な場所へ移動させ、鼻をかませ、うがいをさせる。必要に応じて医師の診察を受ける。
- 皮膚に付着した場合： 直ちに流水で洗浄し、石鹼水でよく洗う。
- 目に入った場合： 直ちに清浄な水で15分以上洗眼し、必要に応じて医師の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合： コップ1～2杯の水又は牛乳を飲ませて希釈する。無理に吐かせない。速やかに専門医の手当を受ける。
- 予想される急性症状及び遅発性症状： 特になし
- 最も重要な兆候及び症状： 特になし
- 医師に対する特別注意事項： 特になし

5. 火災時の措置

- 消火剤： 水、粉末、二酸化炭素、アルコールム
- 使ってはならない消火剤： 特になし
- 火災時の特定危険有害性： 強熱されるとフェームが発生する。
- 特定の消火方法： 不燃性。消火剤を火元へ放射、散布等して消火する。速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能の場合には容器及び周囲に散水して冷却する。
- 消火を行う者の保護： 消火作業の際は、必ず保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置： 作業の際には必ず保護具を着用する。
- 環境に対する注意事項： 流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起ささないように注意する。
- 回収・中和： 少量の場合には、乾燥砂、土、おがくず、ウェス等に吸着させて、空容器に回収する。大量の場合には、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材： なし
- 二次災害防止策： なし

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策： 取り扱いは換気の良いところで行う。吸入、接触を避けるため、適切な保護具を着用する。
- 局所排気・全体換気： 「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。
- 安全取扱い注意事項： 手洗い、洗眼等の設備を設け、取扱い後うがいをし、手、顔等をよく洗う。作業服に付着した場合はその汚れをよく洗い落とす。
- 接触回避： 「10. 安定性及び反応性」を参照。
- 保管
- 技術対策： 特になし
- 保管条件： 直射日光を避け、密栓して冷暗所に保存する。
- 混触危険物質： 「10. 安定性及び反応性」を参照。
- 容器包装材料： 特になし

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度：	酢酸イハ`ンチル 100ppm、酢酸ノルマルハ`ンチル 50ppm
許容濃度：	酢酸イハ`ンチル 100ppm 532.5 mg/m ³ 、酢酸ノルマルハ`ンチル 100ppm 532.5 mg/m ³
設備対策：	取扱場所の近くに洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。
保護具	
呼吸用保護具：	必要に応じて保護マスクを着用
手の保護具：	ゴム手袋
眼の保護具：	ガラス又は透明樹脂ゴーグル型
皮膚及び身体の保護具：	保護衣、保護長靴

9. 物理的及び化学的性質

形状：	液体
色：	青色透明
臭い：	香料臭
pH：	6.0±1.0(20°C)
融点・凝固点：	データなし
沸点、初留点および沸騰範囲：	データなし
引火点：	なし
爆発範囲：	なし
蒸気圧：	データなし
蒸気密度（空気＝1）：	データなし
比重（密度）：	1.04±0.05(20°C)
溶解度：	水に任意溶解
n-オクタノール／水分配係数：	データなし
自然発火温度：	データなし
分解温度：	データなし
臭いのしきい（閾）値：	データなし
蒸発速度（酢酸ブチル＝1）：	データなし
燃焼性（固体、ガス）：	データなし
粘度：	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性：	常温、常圧で安定
危険有害反応可能性：	自己反応性なし。
避けるべき条件：	火気、高温物との接触を避ける。
混触危険物質：	酸化剤、還元剤、塩基との混合、接触を避ける。
危険有害な分解生成物：	通常条件ではなし
その他：	鉄、銅、アルミ等の金属に対し弱い腐食性有り。

11. 有害性情報

急性毒性（経口）：	ATEmix = 5,000mg/kg 以上より区分外
（経皮）：	ATEmix = 5,000mg/kg 以上より区分外
皮膚腐食性・刺激性：	データ不足のため分類できない。
眼に対する重篤な損傷・刺激性：	データ不足のため分類できない。
呼吸器感作性又は皮膚感作性：	データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性：	データ不足のため分類できない。
発ガン性：	データ不足のため分類できない。
生殖毒性：	データ不足のため分類できない。
特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）：	データ不足のため分類できない。
特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）：	データ不足のため分類できない。
吸引性呼吸器有害性：	データなし

1 2. 環境影響情報

水生環境急性有害性： データ不足のため分類できない。
水生環境慢性有害性： データ不足のため分類できない。
残留性、分解性： データなし
生体蓄積性： データなし
土壤中の移動性： 物理化学的性質からみて、水域、土壤環境に移動しうる。
他の有害影響： 特になし
環境基準： データなし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物： 都道府県知事の認可を受けた産業廃棄物処理業者に委託処理する。空容器を廃棄する時は、内容物を完全に除去した後に事業所系廃棄物又は産業廃棄物として処理する。

汚染容器及び包装： 同上

1 4. 輸送上の注意

国連分類： 該当なし
品 名： 該当なし
国連番号： 該当なし
国内規制： 規制されない。
容器等級： 該当なし
輸送の特定の安全
対策及び条件： 容器が破損しないように水濡れや乱暴な取扱いを避ける。直射日光を避ける。

1 5. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法
(P R T R法)： 第一種指定化学物質 亜鉛の水溶性化合物 2.3w/w%(亜鉛として)

労働安全衛生法： 通知対象物質 酢酸ペンチル 0.12w/w%以下

毒劇物取締法： 該当なし
消防法： 該当なし
水質汚濁防止法： 指定物質 亜鉛及びその化合物（法第二条2項四号、令第三条の三）

海洋汚染防止法： 該当なし

船舶安全法： 該当なし

航空法： 該当なし

港則法： 該当なし

1 6. その他の情報

この情報は新しい知見に基づき改訂されることがあります。ここに記載された情報は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。すべての化学品には未知の有害性がありうるため、取扱いには細心の注意が必要です。本品の適正に関する決定は使用者の責任において行って下さい。

記載内容の問い合わせ先 無臭元工業株式会社 研究室
東京都足立区江北2-8-6
TEL 03-3890-9156 FAX 03-3890-6779

- 引用文献
- 1) JIS Z 7253 GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート (SDS)
 - 2) 化学品の分類および表示に関する世界調和システム (GHS)
 - 3) 日本産業衛生学会「許容濃度の勧告」
 - 4) 化学工業日報社「15308 の化学商品」

危険有害性の分類項目（該当法規）

* 爆発性物質 (火薬類取締法)	* 禁水性物質 (消防法・船舶安全法・安衛法)	* 自然発火性物質 (消防法・船舶安全法・安衛法)
* 高圧ガス (高圧ガス保安法)	* 酸化性物質 (消防法・船舶安全法・安衛法)	* 急性毒性物質 (毒劇法・船舶安全法・安衛法)
* 引火性液体 (消防法・安衛法)	* 自己反応性物質 (消防法・安衛法)	* 腐食性物質 (船舶安全法・安衛法)
* 可燃性固体又は可燃性ガス (消防法・安衛法)	* その他の有害性物質 (化審法・安衛法)	

更新履歴：

- 2012/09/14 『8. 暴露防止及び保護措置』の作業環境測定基準の改正による記載の変更。
- 2012/09/14 『15. 適用法令』水質汚濁防止法の改正による記載の変更。
- 2013/12/05 『9. 物理的及び化学的性質』の「比重」を変更。
- 2015/03/12 『15. 適用法令』労働安全衛生法の更新。
- 2015/07/01 『15. 適用法令』労働安全衛生法の更新。
- 2016/04/22 『15. 適用法令』労働安全衛生法の記載変更。
- 2016/04/22 『9. 物理的及び化学的性質』の「pH」を変更。
- 2016/04/22 『2. 危険有害性の要約』の区分等を変更。

補足情報：